FCIVIC FORCE Monthly Report vol. 32

発行日:2013 年 11 月 11 日 発行 :公益社団法人 Civic Force 〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-7-16 市ヶ谷 KT ビル 8 階

TEL: 03-5213-4930 e-mail: info@civic-force.org

の東北は、各地で様々なお祭りが開催されています 10月19日に宮城県気仙沼市内・新城沖公園で開催された

占める中小企業にも大きな影

事業の再起と雇用が今も喫緊 組みに挑戦する企業や個人事 の課題となっています。 従業員数も減少しています。 福島の被災3県の事業所数は、 業主の方々がいます。 据え、あえて被災地に身を置 ながりの深い地域の復興を見 たなか、 生まれ育ったまちやつ 地の人口減少に拍車をかけ、 疎化が進行していた沿岸被災 企業への影響は、もともと過 し、2012年は約6万7000。 震災前は8万以上だったのに対 内閣府によれば、岩手、宮城、 再起をかけて新たな取り 18%ほど減り 徐々に回復 こうし

> 出店者は、事前に実施される 1日で1000人以上を集客。 店の機会を提供し、初年度は

定期講習会でビジネスの組み立

を目指して、

甚大な被害を受

けた三陸沿岸の商店主らに出

災前より魅力的な街づくり」 催された復興イベントです。「震 として、気仙沼市で初めて開 シビックフォースとの協働事

てや検証、

売り上げ目標の設

定などを行う点に特徴があり

す。翌年8月に実施した2

る「東北マルシェ」の取り組みの企業や個人事業主を応援す 金」を設立したほか、被災地011年末に「東北共益投資基 地場産業を応援するため、2 からのご寄付を活用して東北の シビックフォースでは、

実施された第3回「東北マルシェ

被災企業の再起をかけた挑

元NPOネットワークオレンジと 大震災後の2011年11月、

ティックブランド「ロクシタン」 には、起業家コンテストを開催。 化させるべく、マルシェの翌日 のサポートを得て実現しまし 南仏プロヴァンスに招待し、 た。これまでの取り組みを進 3回目となる今年の「東北マ 位入賞者はマルシェの本場、

ちづくりイベントとしても注目

約3600人が集まり、

Monthly Topic

Civic Force の複数<mark>の事業</mark> の中から、注目のトピック をお知らせします。

東 北から世界へ 南仏で出店

第3回東北マルシェ&起業家コンテスト

・準優勝団体の代表者コメント

命があるだけありがたい。 親戚や知人など助けてくれた人への恩返

しがしたくて、唯一被災を免れた蔵に残っていた着物を引っ張り出し て、ブックカバーや針山、巾着袋などの和小物を作り始めました。

ど一る』は気仙沼の方言で『あったまる』の意。2人だけで始め、

作る量も限られていますが、東北マルシェの事前ワークショップでは、

POP 講座など何も分からない私たちにとって貴重な学びの機会にな

りました。今回の受賞は本当にビックリしましたが、フランスの人が

私たちの作品をどう思うか、 不安と期待でいっぱいです」(写真右:

昨年も参加した東北マルシェに協力してくれると聞いて、

むためのパワーを与えていま の課題解決と新たなビジネス か、2011年11月の初開催 しい環境下で不安を抱えるな 者の多くが、 ルシェ≅」は、 が開催されました。「東北マ ビジネス手法を伝え、 を立ち上げていく上で役立つ 診断士などと協力し、 月 19 日、 第3回「東北マルシェ™」 毎年実施。中小企業 店を失うなど厳 宮城県気仙沼 被災した生産 生産者 前へ進

自立につながる「起業支援金. のカニむき身加工会社 会社カネダイ」に決定。 優勝・準優勝の2団体には、

びの機会が提供されます。 で出店するなど、さらなる学 が南仏プロヴァンスのマルシェ 団体から2人、準優勝は1人 30万円が贈られたほか、優勝 ち上がっ 復興後に 新たに立 今年も 目となる 第 3



震災後、 どーる」が優勝。 ど、オリジナルブランド『か 和小物を製造・販売する「ほ 被災を免れた着物布を使った の審査員が審査。その結果、 収益性などを審査基準に4人 票と審査員による審査合計得 家コンテストを実施。コンテス に物語』を展開する国内有数 にカニ専門店を出店するな 社会性·新規性·実現可能性 点の上位フ団体で、このうち、 回のマルシェと合わせて、 24団体が出店し、 した24団体のうち、 ト対象団体は、マルシェに参加 人を集客しました。 気仙沼の復興屋台村 準優勝は、 また、 来場者投 約2000 起業

本格運航開始式典開催 医療用多目的ペリ

▶優勝

ほどーる

「津波で被災し家を失いましたが、

清水さん、写真左:木田さん)

(株) カネダイ

「震災前は、丸ずわいがになどを

◆準優勝

Ŕ 取り上げられました。 も多数入り、 沼市長や一ノ関市長 用多目的ヘリコプターの運航開 していく予定です。 さらに多くの医療機関と連携 したほか、報道関係者の取材 五典防衛大臣(代理)をはじ 南三陸町長(代理)、 始式典を開催しました。 気仙 23日、宮城県気仙沼市で医療 コプター (ARH)」が、 ナー団体「オールラウンドヘリ , ビックフォースのパート たくさんの関係者が出席 各種メディアで (代理)、 小野寺 今後は 10 月

定。

日

津波防災訓練に参加 11 2 気仙沼市

1年6月に 津波などに備えるため、 今後も起こりうる大規模地震・ 大震災の災害経験をもとに、 宮城県気仙沼市では、 「津波防災の日 東日本 201



RHと気仙沼市との三者間に

シビックフォースはすでに、

勢を整えています。

定」を締結していて、

有事の

ブター)の利活用に関する協 おいて「回転翼航空機(ヘリコ

際にはいち早く出動できる態

日

た。

や情報収集・伝達などの訓練 RHなどと協力し、 うち、シビックフォースは、A を展開。 や避難広報、炊き出し・給水、 状況調査および空路による物 トリアージなど複数の訓練の 災害対策本部の設置・ 上空からの津波被害 物資搬送

シビックフォースも参加しまし

全国に卸していましたが、震災で工場・倉庫を失い本社も全壊。 売上は2割まで落ち込みましたが、 再起をかけて仮設店舗への出店 や東京の大手百貨店などでも販売をはじめ、今後もさらに成長し、 拡大を続けたいと思っています。 ロクシタンは目標にしていた企業の かつながりを持ちたいとプレゼンに臨みました。 来春、 フランスでの 出店を通じて、学べることはすべて吸収してきたいと思います」(写 真:熊谷さん)

資搬送を行いました。

起業目指す人を応援し、町を元気に

暮らしやすいまちづくりを目ちの社会参加支援と、誰もが仙沼市で障がいを抱えた人た 指して活 「心の回復につながる支援」 大震 カフェ「チャの木」の開 カ所を失 2011 被災 災 所を失いましたが、 長災では、市内の事業 011年3月11日の事 を理 から 者への支援やコミュニティ んい 「動を続けています。 伝念に掲 強い思いと行 な 12 の タがまちづくりのセのある人もないー を引き 日 目に げ、 事 裂 宮 事業 業を再 東日 動力で スタッ |城県気 設 < 勢い 派2 本



ネットワークオレンジ 代表 小野寺美厚さん

今

Face to Face

Civic Force の活動は、 多くの企業や NPO、行政 などに支えられています。 パートナーからの旬の メッセージを<u>お届</u>け するコーナ-です。

備に力を入れてきまし

-マにコミュニティの

環

境



東北マルシェでは、6月から毎月1回、事 前ワークショップを開催し、ただ出店するだ けではなく、学びの機会を提供

後は、気仙沼の産業家コンテストを実業家コンテストを実 にも たのが、 担ってきた水産業関 ていただきたいです にやってみて分かった」 プにしてもらえたらと続 実践型 ビジネススクー ビックフォースと協 出 ま い声が聞かれました。 !の機会を用意しました。今||2団体には、フランスで研 月 4 を高 創ろう!東北マル しながらの出 の獲得や 年 た、 店して成長できた」「実 -クショップを含め切+も24団体が参加。 参 出店を通じて、 · 日 の 加してもらい、 気仙沼の産業の中心会を用意しました。 今年は、 2011年 特に力 振り返り会 次につながるステッ 起業のための経 店でした 実施 合わ を入れてき 働 新しい語 11 係 **パシェ**」 断で行った 3切磋琢 事前 など ڗۜ 役 の 月 t ル で にシ 企 心 立 7 験 を

2013年11月11日現在実施中の東北支援事業の一部をご報告します。

中長期復興支援事業

Civic Force では、緊急時から約1年半にわたる支援活動の中で見えてきた被災地の課題解決に向けて、さらに腰を据えて取 り組むため、2012年夏から「中長期復興支援事業」を続けています。各事業の進捗状況をご報告します。 http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/choki/

■観光再生プロジェクト

~ "訪れたいまち"に向けた官民協働の仕組みづくり 宮城県気仙沼市が復興重点事項に掲げる"観光"の戦略立 案をサポート。2013年7月には一般社団法人「リアス観光 創造プラットフォーム」の立ち上げに参画し理事として継続支 援。

■共"還"まちづくりプロジェクト

~地域発・住まいとしごとの創造的復興チャレンジ支援 被災地で生まれた NPO や自治体と協力し、すでに集団移転 を決めた地域の新しいまちづくりや、これからまちづくりを進 めていく地域で専門家派遣や人材育成などを支援。

■夢を応援プロジェクト

~奨学金 × 地域発の教育プログラムで若者サポート 東日本大震災の影響で就学継続が困難な状況にある被災地 の高校生が社会人になるまで、月3万円の奨学金を給付。 夏には宮城と岩手で体験学習プログラムを提供。 p4 参照。

■緑の"環"プロジェクト ~持続可能な林業と木質バ イオマス活用を通じて地域を活性化

木質バイオマスの利用を通じて持続的な社会の構築を目指す プログラム。 地元企業や NPO と協力し個人林業者の育成や 木材集積場の運営、地域通貨の試験的利用の面でサポート。

■命をつなぐ翼プロジェクト ~へリを活用した緊急医療搬送支援 p2 参照。

NPO パートナー協働事業

被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートしています。 2011 年 4 月からこれまでに 37 団体と 49 事業を展開。 2013 年 11 月現在、5 件の事業を実施中です。 http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/npo/

- ■リアス観光創造プラットフォーム:気仙沼市の観光戦略を具現化する中核推進組織として、パイロット事業などを実施中
- ■nina 神石高原:福島の被災者に対し、広島県への集団避難と移転先でのコミュニティ維持再生を支援
- ■ネットワークオレンジ: 10 月 19-20 日に東北マルシェと起業家コンテストを開催。 詳細は p2
- ■森は海の恋人:人と自然の共生のあり方を考え直す拠点となるような環境教育活動を展開中
- ■気仙沼みらい計画大沢チーム:都市計画や建築の専門家チームが集団移転と復興まちづくりをサポート









東北支援

塩尻・袋井と協議会

奨学生交流会を開催

割分担や今後の方針などについ 会場となった塩尻市で、 者協議会が初めて実施され、 袋井市、 て話し合いました。 シビックフォースの3 各役

25 日

長野県塩尻市と静岡県

間共助推進事業」では、 省の「平成25年度広域的地

10 月 域 的な連携を推進する国土交诵

災害に備えて平時からの広域

募金券」 24日まで

です)

トする「夢を応援プロジェク 被災した東北の学生をサポ

その一環で、

11月2日

シビックフォ ースが選定。 寄付先として 金できる良品計画ネットストア 「募金券」の 10 円または100円単位で募

学金制度の改善案などを話し

た12人が奨学金の使い道や奨 流会が仙台で開催され、集まつ 奨学生対象のモニター会議兼交

合いました。 奨学生からは「家

掲載。 11月24日まで 無印良品の 募金券

が、奨学金を活用して資格をが全壊し家計が苦しくなった

海自幹部学校で講

で行っています。 えた活動についての講演を各地 ように連携できるかについて講 民間組織と軍が災害時にどの 衛隊幹部学校で「NGOの現状 での支援活動や次の災害に備 と未来への挑戦」をテーマに シビックフォースは、 代表理事の大西が海上自 10月23日に 被災

https://twitter.com/civicforce

http://www.youtube.com/civicforceorg

https://www.facebook.com/civicforce

http://www.civic-force.org/mailmag/

You

Tube

いる仲間 は境遇に

災で大変 せる場となり、 奨学生同志が初めて顔を合わ してきたことを発表しました。 体験を交えて、震災後に努力 動に専念できている」など被災 とり就職につながった」「部活

「同じように震

せられま た声が寄 た」といっ て良かっ と出会え

> に備えてください。 だく形で、 大規模災害にとも サポーターとして、 様の力が必要です。 時から備えておくために、 (1000円単位) をご寄付いた 次の大規模災害に向け、 マンスリー 毎月定額 뱜 平

支店 ■銀行:三井住友銀 普通 6953964 行 青 Ш

エキシャタ゛ンホウシ゛ン シヒ゛ックフォース 」 (上記いずれも口座名義は「コウ ■ゆうちょ:00140-6-361805

ださい。 ライン募金」をクリックしてく ■クレジットカード:HP「オン

rce/donation/bokin/page1.php https://bokinchan2.com/civicfc ookin_type=donation

マンスリー・レポートは、 http://civic-force.org/news/mc ※毎月11日前後に発行している nthly/ からご覧いただけます。

シビックフォースが東北地方で復興支援活動を開始してから、2年8カ月。このコーナーでは、被災し た地域で復興に向けて前向きに活動する人々を紹介します。 今回は、 宮城県気仙沼で仮設住宅の管理 業務などを担う気仙沼復興株式会社の坂井政行社長に聞きました。



気仙沼復興(株) 坂井 政行さん

震災後の 2011 年 9 月に「気仙沼復興株式会社」を立ち上げ、支援 物資の受け入れ・配布、仮設住宅のメンテナンスや入居者へのサー 仮設ハウスの販売など多岐にわたる事業を展開しています。

震災前、気仙沼でクリーニング店を経営しつつ商工会議所の役員を務めて いましたが、発災から数カ月間は、気仙沼の避難所の運営に携わり、全 国の商工会の仲間やその知人などから寄せられる物資を受け入れ、それら を分配。支援が行き届いていなかった小規模避難所など、地域のつながりの中で寄せられるニーズに応える形で動いてきました。その後、復興がな かなか進まない気仙沼の現状を何とかしたいと、商工会などから依頼を受 けて、気仙沼復興株式会社を立ち上げました。

私たちの役割の一つは、外からの支援と被災地をつなぐこと。震災後、気持ちやモノがあっても土地勘 がなくて的確な支援に結び付かないケースを見て、昔から気仙沼を知るものとしてできることを続けてき 今、力を入れているのは運転手付きのトラックを1時間単位で借りられる「レンタル便」。 仮設 住宅のメンテナンスなど現在の主事業が先細っていくなか、今後は仮設住宅からの引っ越しを支えるサー ビスが求められます。幅を決めず何でもやる気持ちで事業を展開し、雇用を増やしていきたいです。